



議会だより

No. 61 2020年2月1日発行

●発行責任者：南魚沼市議会議長 小澤 実
●編集：議会広報編集特別委員会

一般質問録画映像の配信をしています！



越後三山

令和元年 第1回 臨時会の概要／議決結果	2	ページ
新しい議会構成	3	ページ
令和元年度一般会計補正予算審議	4・5	ページ
その他議案審議	5	ページ
議決結果／委員会審査報告	6・7	ページ
一般質問 18名が市政を質す	8～15	ページ
コシヒカリ条例アンケート結果	15～19	ページ
議会の動き	20	ページ

令和元年 第1回臨時会 の概要

11月6日に開かれた臨時会では、正副議長の改選が行われました。また、3常任委員会、議会運営委員会、議会広報編集特別委員会の構成も新しくなりました。

その他、一般会計補正予算についても審議が行われました。

令和元年度 南魚沼市一般会計補正予算（第4号）

1億1,324万円を増額し

総額 307億7,234万6,000円としました。

令和元年10月12日から13日にかけて発生した、台風19号による農業用施設、林道、市道、河川等の被害の迅速な復旧を行うために必要な経費を主なものとして計上しました。

◆台風災害関連予算

歳出では、石打の関山大堰、南田中の古峰堰の復旧を含めた災害復旧経費として

- ・農業用施設 計8か所
 - ・土地改良区への災害復旧補助18か所
 - ・林道12か所
 - ・市道等9か所
 - ・河川10か所
- を計上

◆この夏の高温によるコシヒカリの品質低下に伴い、農業者の経営安定を図るために、利子補給制度を整備し、利子補給金を計上

令和元年 第1回臨時会の全議決結果

議案番号	市長提出議案	議決結果
第88号議案	令和元年度南魚沼市一般会計補正予算（第4号）	可決（全会一致）
第89号議案	南魚沼市監査委員の選任について（関 常幸）	同意（全会一致）
議案番号	議員発議案	議決結果
	議長の辞職について（小澤 実）	許可（全会一致）
選挙第1号	議長の選挙について	当選人 小澤 実
選挙第2号	副議長の選挙について	当選人 鈴木 一
選挙第3号	新潟県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙について	当選人 中沢一博
選挙第4号	魚沼地域特別養護老人ホーム組合議会議員の選挙について	当選人 中沢一博
許可第1号	議長の常任委員会委員の辞任について	許可（全会一致）

新しい議会構成が決まりました

議長、副議長の辞職及び常任委員会委員の任期満了等により、令和元年11月6日に開かれた第1回臨時会で、新しい議会構成が決まりました。



議長
小澤 実

令和元年11月6日に行われた臨時会におきまして第10代議長として再任されました。2年間の経験を生かし、重責を務めます。

現在、市の直面している問題は、人口減少、新ごみ処理施設建設、病院・医療、福祉、防災・減災、財政、公共交通と多岐にわたります。これらに対し、議会として全国各自治体の長所を吸収し、市政に反映していかなければなりません。

議会報告会も含め、市民とのワークショップを行い、市の未来を語り合う中で、議会内で討議も重ね、議員のスキルアップを図る必要があります。

おわりに、市民の視点に立ち、負託に応えてまいりますので、ご理解と温かいご支援を心からお願い申し上げます。



副議長
鈴木 一

令和元年第一回臨時会におきまして、副議長に就任いたしました。

その責務の重さに身の引き締まる思いです。議長を補佐しながら市政の推進、議会の公正かつ円滑な運営に努めてまいります。

南魚沼市は厳しい財政の中、医療、福祉、教育、少子高齢化対策等、喫緊の課題が山積しております。市民の要望を的確に捉え、市執行部とも連携して、市政に反映していきたいと考えています。

南魚沼市議会は県内でも平均年齢が若い議会です。それだけに若い市民の皆様にも市政に関心をもっていただきたい。そして、議員への道も考えていただきたい。そのためにも議会がもつと開かれ、市民の皆様にご理解いただけるようにならなければなりません。

今後とも市民の皆様のご支援とご指導をお願い申し上げます。副議長就任のご挨拶といたします。

○議長：小澤 実 ○副議長：鈴木 一 ○監査委員：関 常幸

	委員会名	委員長	副委員長	委員	任期
常任委員会	総務文教委員会	塩川裕紀	寺口友彦	勝又貞夫、桑原圭美、清塚武敏、鈴木 一、岡村雅夫、	R1.11.6 ~ R3.10.31
	産業建設委員会	塩谷寿雄	永井拓三	梅沢道男、吉田光利、中沢道夫、関常幸、牧野 晶	
	社会厚生委員会	中沢一博	目黒哲也	大平 剛、田中せつ子、佐藤 剛、黒滝松男、阿部久夫	
議会運営委員会	清塚武敏	勝又貞夫	吉田光利、岡村雅夫、寺口友彦、中沢一博、塩谷寿雄		
	議会広報編集特別委員会	大平 剛	梅沢道男	目黒哲也、吉田光利、中沢道夫、勝又貞夫、阿部久夫	付議された事件の審議が終わるまで又は議員任期(R3.10.31)まで

12月定例会 の概要

本会議は12月2日、9日～11日、13日の5日間。常任委員会は4日～6日に開かれました。
議決結果は6～7ページをご覧ください。

令和元年度 南魚沼市一般会計補正予算（第5、6号）

4億3,642万5,000円を追加し

総額 312億877万1,000円とします

主な補正項目

- ・ 地方交付税増額
- ・ ふるさと納税寄付金の増額
- ・ 基金繰入金の減額
- ・ 市債の減額
- ・ 街路新設改良事業費の減額
- ・ 災害復旧費の増額

質疑応答

Q&Aは一部のみを掲載しています。

歳入

○普通交付税増額

5億1,696万円

Q 予算編成の際に見積もりをした上で計上していると思うが、大きな差額であるのは、なぜか。

A 国が決める単価が後で決まってくるため差額が出る。なるべく、確度の高い見積もりを心がけたい。

○ふるさと納税寄付金

2億2,745万円

Q 歳入歳出とも同額の補正であるのは、なぜか。

A 年度の途中までは寄附される金額ではなく、経費と同額の金額を歳入に上げている。最終的には経費を差し引き、実際に使える金額を3月の補正などで計上する。また、一旦、基金に積み立ててから予算執行を行うため、このような形になる。

歳出

ついで。

○市税還付金及び還付加算金

650万円

Q 還付金の内訳は

A 50万円以上が9件で、そのうち500万円以上が1件あった。

Q 還付の理由は。

A 課税誤りではなく、予納した分に対して発生した還付金である。

○生活保護費(医療扶助)

4,500万円

Q 高額の補正だが、具体的な内容は。

A 前年度より16件増えており、その中でも1件当たり100万円以上の高額医療対象者が多くなっていることが要因である。

Q 生活保護者の医療費のうちジェネリックの使用率はどうか。

A 生活保護者の医療費のうちジェネリックの使用率はどうか。

A 国から通知も来ている。医師の処方件数に対して利用率は83%である。

○消防庁舎整備費

1,600万円

Q 空調設備の工事だが、なぜ最初から予算化しなかったのか。入れ替えることで省エネがすすむのか。

A 修理を考えていたが、部品もなく改修することにした。従来よりは電気代は少なくなる。

○樋渡東西線JR委託料

2億7,610万円減額

Q JRとの協議による減額とのことだが、具体的にどのような理由か。

A 地中の玉石等の障害物がなかったことと施工期間の短縮によるためである。

○ネットワーク変更業務委託料

167万円

Q 具体的にどのような変更か。

A 本庁舎と出先15拠点のネットワークの通信速度を速

くする。本庁舎の応接室に別系統のネットワークを引く。

○庁舎整備事業費
600万円

Q 庁舎施設改修工事費並びに一般備品購入費の内容は。

A 庁舎内会議室不足のため302号室を2分割にして使用できるように可動式間仕切りを設置するとともに、クロスと床の張り替えと椅子やテーブルの備品購入費用である。

○マイナンバーカード交付事業費
88万円

Q マイナンバー促進への取り組みと今後の目標交付率は。

A マイナンバーに保険証機能やポイント制度導入等の動きとともに、市としても延長窓口や日曜窓口等に対応している。現在の交付率は13%位であるが、来年度末までに、交付者1万5千名、交付率25～30%を目標にしている。

その他議案審議

Q&Aは一部のみを掲載しています。

〔第95号議案〕

南魚沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について

Q 非常勤職員の大半はパートタイムとのこと。その報酬の定め方に月額・日額・時間額の三種類あるが、それぞれ何人なのか。

A パートタイムは、4月時点で約530人。すべて時間給で報酬を定めている。

Q パートタイムからフルタイムへ移行することは可能か。

A ほぼすべてのパートタイムが現行のままであるが、フルタイムへの移行も可能ではない。

〔第96号議案〕

南魚沼市特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正について

Q 農業委員会については、基本額と実績加算額に分けて、実績加算額は標準で月額8千円、これに活動日数等が計算されるが、非常に

あいまいではないか。

A 基本的には活動記録簿により評価するが、可能な限り不公平感のないように努めたい。全員一律同額ということもありえる。交付金の額も年によって違うので、予算の範囲内での判断となる。

〔第100号議案〕
南魚沼市火災予防条例の一部改正について

Q 以前から違法施設を見逃してきたのか。是正命令は出されていたのか。市内の違法防火対象物はどれくらいあるのか。

A 毎年特定防火対象物の定期査察を行なっているが、見落としが無いとは言えない。消防設備等の不備があれば指導書を発行するなど、厳しい指導を行なっている。件数は8件である。

〔第102号議案〕
南魚沼市地下水の採取に関する条例の一部改正について

Q この一部改正で、地盤沈下をどのように解消できる

のか。

A 今回の改正は、地盤沈下重点区域・その他区域を通して、申請する際の手続きを分かりやすくするもので、地盤沈下に対する対策・防止についての考え方は、条例そのものが持っていて、これに変更はない。

〔第105号議案〕

南魚沼市農産物・特産品直売所の指定管理者の指定について

Q 現在の道の駅南魚沼は、かなり利益がでている。市への還元金は利益の30%と決められているが、この率を50%に引き上げる考えはないか。これだけ利益が出るならば、市の直営でもいいのではないか。

A この30%という還元金の率については議論もあつたが、今後も協議していきたい。市が直営でやるかというところ、そのノウハウがない。そのための指定管理であり、民間の力を借りて運営するのが良いと考える。

Q 選定審議会で公募して、2社の応募があつた。それぞれ魅力もあり課題もあつたようだが、その決定の経

過はどうであつたか。

A 11月5日、8名の委員で20項目をそれぞれ評価し、その総合計の点で農協に決まった。公の施設であるという観点も配慮されたものと思う。

Q 農協が運営する魅力と課題はどのようなものか。

A 農産品の直売所でもあり、農協の実績と営農指導が魅力である。課題としては、休日などのイベントのやり方を、農協のイベントというより、道の駅らしいイベントにしてほしいとの市民の声があることだ。

〔第108号議案〕

工事請負変更契約の締結について（都計道第2号市道樋渡東西線道路改良工事（土木その2））

Q 当初の予算からして、全体の金額がいくらで計画され、最終的にいくらになったのか。

A 当初28億円で試算し、事業を決定したが、調査の結果、現場の土質が悪かつたり、ブロック積の予定を擁壁に変えたりしたため、約39億3千万円となった。

議案番号	請願・陳情	議決結果
請願第3号	免税軽油制度の継続を求める請願書	採択(全会一致)
議案番号	議員発議案	議決結果
発議第5号	天皇陛下御即位を祝す賀詞に関する決議について	可決(全会一致)
発議第6号	免税軽油制度の継続を求める意見書の提出について	可決(全会一致)
発議第7号	被災者生活再建支援法の改正を求める意見書の提出について	可決(全会一致)
発議第8号	ツキノワグマ対策の拡充に対する意見書の提出について	可決(全会一致)

賛否一覧表

起立採決等によりそれぞれの賛否が明らかに示され、かつ、賛否が分かれた議案について詳細を表示しています。

○=賛成 ×=反対 -=退席 欠=欠席

※議長は採決に加わりませんが、賛否が同数の場合は議長採決となります

議案	南魚みらいクラブ							歩む会				未来創政会				市民クラブ				日本共産党議員団		
	目黒哲也	吉田光利	塩川裕紀	清塚武敏	小澤実	黒滝松男	関常幸	勝又貞夫	鈴木一	塩谷寿雄	牧野晶	阿部久夫	大平剛	永井拓三	桑原圭美	中沢一博	梅沢道男	田中せつ子	佐藤剛	寺口友彦	中沢道夫	岡村雅夫
第97号議案	○	○	○	○	※	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第99号議案	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
第102号議案	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○

産業建設委員会付託審査

(令和元年12月5日)

請願第3号

「免税軽油制度の継続を求める請願書」の採択に関する請願について

これまで冬季観光産業の重要な柱であるスキー産業の発展に貢献してきた免税軽油制度が、令和3年3月末で廃止される状況にあります。

免税軽油制度は、道路を走らない機械に使う軽油について軽油引取税(1リットルあたり32円10銭)を免除する制度で、農業用機械や船舶・倉庫や港湾などで使うフォークリフトなど、道路を使用しない機械燃料用の軽油は、免税が認められてきたものです。

スキー産業では、索道事業者が使うグレンデ整備車・降雪機械等に使う軽油が免税になっています。この制度がなくなればスキ

ー・スノーボード等の冬季観光産業が大きな負担増を強いられ、スキー場の経営維持が困難になるとともに、市町村経済にも計り知れない影響を与えることになるため、免税軽油制度の継続を求める請願です。
・討論なし。

◆全会一致で採択



令和元年12月 定例会の全議決結果

議案番号	市長提出議案	議決結果
第90号議案	令和元年度南魚沼市一般会計補正予算（第5号）	可決（全会一致）
第91号議案	令和元年度南魚沼市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可決（全会一致）
第92号議案	令和元年度南魚沼市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	可決（全会一致）
第93号議案	令和元年度南魚沼市介護保険特別会計補正予算（第3号）	可決（全会一致）
第94号議案	令和元年度南魚沼市水道事業会計補正予算（第2号）	可決（全会一致）
第95号議案	南魚沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について	可決（全会一致）
第96号議案	南魚沼市特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正について	可決（全会一致）
第97号議案	南魚沼市職員の給与に関する条例の一部改正について	可決（賛成多数）
第98号議案	南魚沼市税条例の一部改正について	可決（全会一致）
第99号議案	南魚沼市都市公園条例等の一部改正について	可決（賛成多数）
第100号議案	南魚沼市火災予防条例の一部改正について	可決（全会一致）
第101号議案	南魚沼市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について	可決（全会一致）
第102号議案	南魚沼市地下水の採取に関する条例の一部改正について	可決（賛成多数）
第103号議案	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について	可決（全会一致）
第104号議案	成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について	可決（全会一致）
第105号議案	南魚沼市農産物・特産品直売所の指定管理者の指定について	可決（全会一致）
第106号議案	字の変更について（国土調査）	可決（全会一致）
第107号議案	字の変更について（土地改良事業）	可決（全会一致）
第108号議案	字の新設について（中越森林管理署）	可決（全会一致）
第109号議案	市道の路線変更について	可決（全会一致）
第110号議案	南魚沼市教育委員会教育長の任命について（岡村秀康氏）	同意（全会一致）
第111号議案	南魚沼市教育委員会委員の任命について（角谷正雄氏）	同意（全会一致）
第112号議案	南魚沼市固定資産評価審査委員会委員の選任について（遠藤喜代志氏）	同意（全会一致）
第113号議案	南魚沼市固定資産評価審査委員会委員の選任について（勝又義一氏）	同意（全会一致）
第114号議案	南魚沼市固定資産評価審査委員会委員の選任について（笛木明治氏）	同意（全会一致）
第115号議案	人権擁護委員の候補者の推薦について（三井厚子氏）	同意（全会一致）
第116号議案	工事委託変更契約の締結について（上越線塩沢・六日町間 樋渡こ道橋新設工事）	可決（全会一致）
第117号議案	工事請負変更契約の締結について（都計道第1号市道樋渡東西線道路改良工事（土木その1））	可決（全会一致）
第118号議案	工事請負変更契約の締結について（都計道第2号市道樋渡東西線道路改良工事（土木その2））	可決（全会一致）
第119号議案	新潟県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び新潟県市町村総合事務組合同規約の変更について	可決（全会一致）
第120号議案	令和元年度南魚沼市一般会計補正予算（第6号）	可決（全会一致）
第121号議案	南魚沼市印鑑条例の一部改正について	可決（全会一致）

一般質問

Q & A は一部のみを掲載しています。

■ 質問順位

1. 寺口 友彦
2. 黒滝 松男
3. 中沢 道夫
4. 桑原 圭美
5. 目黒 哲也
6. 塩川 裕紀
7. 阿部 久夫
8. 大平 剛
9. 佐藤 剛
10. 塩谷 寿雄
11. 中沢 一博
12. 勝又 貞夫
13. 永井 拓三
14. 梅沢 道男
15. 吉田 光利
16. 岡村 雅夫
17. 清塚 武敏
18. 田中 せつ子



一般質問とは…

議員が市の行政全般について、執行機関に対して所見を求め、疑義を問いただすものです。

右のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になれます。



市民クラブ
寺口 友彦

第2次総合計画見直しに新たな視点を

答 持続可能な発展目標という考え方を入れる

Q 質問 この5年間で市を取り巻く環境は変わった。財政健全化は至上命題だ。身の丈に合った開発目標を示し、市の存続をかける姿勢が大事だ。「あったらいいな、あれ

ばいいな」という発想は排除すべきだ。

A 市長 まちづくりに関する市民アンケートを実施したので、これを分析し、策定部会を設置し、見直し準備を始めている。持続可能な発展目標というのは新たな視点である。既に実施した施策も含め、この視点で見直し、市民の皆さまと共有し、今後の取り組み方を検討する。身の丈に合った開発目標として総合計画の施策に反映できるように取り組みたい。

問題点改善のために予算増を

答 一番の反省点について予算を考える

Q 質問 台風19号の対応で、避難勧告を周知徹底できなかつた。体育館を避難所にしたのは無理があつた。改善するための予算をどう付けるのか。

A 市長 市民への情報伝達として、登録制メール、防災ラジオ、FMゆきぐに、ツイッターやラインを利用したが、ツイッター、ラインで

の情報発信が一部に遅れが出たことを教訓として、広報車の有効活用とSNSによる情報発信についても検討したい。避難所に関しては、非常時に備え、計画的な備蓄に努める。



南魚みらいクラブ
黒滝 松男

3年間の林市政は

答 難しい課題が山積する中、全力で取り組んだ

Q 質問 「若者が帰ってこられる、住み続けられる、南魚沼市に」を掲げた3年前の選挙公約の総括を問う。

A 市長 ふるさと納税による子育て施設「ほのほの」の開設等、明るい方向に向かっていく。

Q 質問 新ごみ処理施設はどう進めるのか。

A 市長 2市1町の広域事業であり、3月中には建設予定地における実現の可能性について判断する。

Q 質問 地域医療対策はどう進めるのか。

A 市長 医師等医療スタッフ不足により、大変な状

況であるが、特別顧問を招へいし、不安払しょくに努める。

Q 質問 防災・減災をどう進めるのか。

A 市長 様々な機会をとらえ、県・国へ要望し、中小河川を含めて整備を図りたい。

2020年秋の市長選挙の対応は

答 再出馬し、謙虚な姿勢で市民の判断を仰ぐ

Q 質問 課題が山積する中、3年間の経験と培ってきた人脈を最大限生かし、2期目の挑戦と考えるが、市長の決意を伺う。

A 市長 選挙では、自らのこれまでと、これからにかける思いをきちんと語り、市民の皆さんの判断を仰ぎたい。



日本共産党議員団
中沢 道夫

子ども・子育て支援のさらなる充実を

答 全面的に無償化するこ
とには反対

Q 質問 子育て環境の充実のため、共産党議員団は

これまで、子ども医療費助成の高校卒業までの拡充、小・中学校の給食費無償化、保育無償化に伴う副食費の無償化、高すぎる国保税のうち子どもにかかる均等割の軽減措置、などを求めてきたが、市長から前向きな回答を得られていない。一度にとは言わないが、何らかの形で足を踏み出したい。いただきたいが、いかがか。

A 市長 国への要望など積極的にやっていくが、南魚沼市単独では財源等の検討が必要である。

Q 質問 「第2期南魚沼市子ども・子育て支援事業計画」で新たに盛り込んだ事

業は何か。

A 福祉保健部長 学童保育の待機児童の解消と、外国人への保育の対応である。

加齢性難聴への公的補助を

答 国への要望は行うが、市独自は難しい

Q 質問 加齢性難聴者の、補聴器の所有率は14.4%と低く、認知症発症にもつながると言われている。

国に対して、補聴器の適切な普及の仕組みを早急に作ることに合わせて、補聴器購入に対する補助制度を創設するよう要望すべきではないか。また、市としても、早期発見のための対策や、補聴器購入に独自の補助制度の創設はできないか。

A 市長 国に対して要望すべきと考える。大きな課題であり今後検討していきたい。



未来創政会
桑原 圭美

小中学生の学習支援について

答 学習指導センターを充実させて実行する

Q 質問 わが市における家庭の経済状況と学業成績の関係性はどうか。

当市の具体的なデータはないが、全国的なものとして、親の経済力が子どもの成績に影響しているという研究結果は出ている。

Q 質問 就学援助等が必要とされている子どもにも必要な支援が行き届いているか。

A 教育長 全児童の11.9%から申請があり、そのうち、9.8%の認定である。真に援助が必要な児童・生徒には支援が行き届いていると考える。

Q 質問 家庭の経済状況を改善するために行政から

のアドバイスが可能か。

A 教育長 福祉課が社会福祉協議会に委託し、個々に合った必要な支援計画を検討している。

Q 質問 塾の先生や教員志望者など、民間の人材を活用した学習支援と学校運営は可能か。

新学習指導要領に基づき、授業時間が増える中、教員の多忙化解消が求められている。学力の向上については量ではなく質で臨む。学習熟関係者の活用は、新たな魅力ある視点と考えている。教員志望者の活用は、12名の方から講師として活動いただいている。





南魚みらいクラブ
目黒 哲也

台風19号での教訓から今後の防災体制は

答 自主防災組織がもっとも大事である

Q 質問 災害対策本部機能の評価と課題は。

A 市長 早い段階で自主避難所を設置することが出来たこと、更に国、県との情報共有、警察署、消防署、自衛隊、ダムのおペレイト等の連携が図られたこと、またSNSやラジオでの情報伝達も状況の変化と共に発信出来たことは評価できる。課題としては、地域への呼びかけをする広報車を出せなかったこと、庁内並びに職員との情報共有、また大和地区の多門橋水位計の精度に今後検討が必要である。よりの確な情報を伝達するためにもFMゆきぐにが本部に常駐することも検討したい。

Q 質問 今後の具体的な市民への防災対策は。

A 市長 もっとも大事なことは災害発生前に動き始めることである。そのためには災害対策本部としては、的確な情報収集と市民との危機感の共有、そして避難勧告の確な発令に努める。地域においては自主防災組織を改めて見直し、強化して欲しい。市民には情報を得る手段を口頭から確認しておいて欲しい。ハザードマップの活用も促進していきたい。

Q 質問 今後、外国人への対応については。

A 市長 避難所も全て日本語であり、今後の重要な課題である。本気になって対応を考えていく。



南魚みらいクラブ
塩川 裕紀

電動カート購入助成制度導入について

答 県内市町村の動向を注視し、対応していく

Q 質問 南魚沼市においても高齢者運転免許証自主返納支援事業を行っているが、自身の都合に合わせて外出できる電動カート購入助成制度を導入するべきではないか。

A 市長 電動カートは一つの有効な手段と考える。まずは、介護保険制度利用のレンタルのやり方を拡充し、要件の緩和等が望まれる。地域内の交通インフラの拡充も同時に行っていくかなければならない。

ネットトラブルから青少年を守る方策は

答 小学校入学前の保護者に講話を行っている

Q 質問 以前から危険なサイトに接続してしまう可能性や、SNSによるいじめ等が問題になっていたが、新たに誘拐事件に繋がる事例も報道されている。

現在の青少年及び保護者に対する啓発と今後の取り組みについて伺う。

A 教育長 毎月の校長会で事例を挙げ、意見交換会を行っている。いくつかの学校では講師をお願いし、子どもと保護者向けにインターネットトラブル防止教室を実施している。

今後、PTA連絡協議会と連携を図り、家庭用のリーフレット等を作成し働きかけていく。



歩む会
阿部 久夫

日本一の南魚沼産米の今後の見通しは

答 安心・安全な高品質良食味米を生産する

Q 質問 台風10号のフェーン現象による高温障害により、1等米比率が25%と想定外の数字となり、農家や農業者に大きな衝撃を与えた。今後も高温障害が予想される中、今後の見通しは。

A 市長 地域の水利事情に依りて、水の確保と管理

が重要である。品種に対し、適時適作に幅を持たせ、変化に対応していく。

Q 質問 コシヒカリの食味向上に対し、今後の取り組みは。

A 市長 水の確保と管理に加えて、基本技術の徹底と土づくりを検証する必要がある。

Q 質問 農業所得の向上を図ることが喫緊の課題ではないか。

A 市長 1等米の比率を高めることが重要。良質米になるよう支援する。また、農業施設の効率化を図る。中・小規模農家を重視し、広く皆さんから参加してもらう施策を図る。

Q 質問 貿易関係など大きな課題が山積している。どう米販売に取り組むのか。

A 市長 市の知名度は高まっている。市内の自然エネルギーを使った農産物に磨きをかけていく。今年度、米離れの阻止、就農者の確保を目的とし、PR動画をインターネットで公開している。

Q 質問 小規模・中規模農家の農業機械更新に対して助成する考えはないか。

A 市長 1市だけではできないが、非常に大きな課題である。



未来創政会
大平 剛

南魚沼市役所の電子化について

答 できるところから徐々に進めたい

Q 質問 業務のペーパーレス化について現状と今後の方針は。

A 市長 一定程度のペーパーレス化は、進んでおり、効率化は図られてきたと考えているが、会議・説明会・外部とのやり取りに関しては進んでいないのが現状である。大規模ペーパーレス化に関しては、経費・事務作業の面から早急に対応する方針は持っていないが、国がデジタル化を進めていく中で、行政シス

テムに統一の基準や仕様を普及させる動きがあれば、必要な対応をしていきたい。

Q 質問 市のウェブサイト上における情報公開と電子申請について現状と今後の方針は。

A 市長 情報公開については、市民の皆さんが、容易に目的の情報を得られるように、業務分野別に表示している。同時に、市報・予算決算等財政の状況・市勢要覧等、各種の数値を表示している。

電子申請については、子育てワンストップサービスを平成29年11月から導入した。ここでは児童手当の各種の申請手続きを電子申請で行えるようになったが、このサービスはマイナンバーカードの公的個人認証サービスが必要とするシステムになっており、昨年度においてこのサービスを利用する申請はなかった。

電子申請をそれぞれの自治体が、独自の仕様で運用すると利用側の操作性にも影響すると考えられる。今後は国が示す共通仕様により電子申請について検討していく。



市民クラブ
佐藤 剛

地方創生につながる次期総合戦略を

答 指標の設定も含め実効性を高め進める

Q 質問 総合戦略策定から5年。東京一極集中から人の流れと経済循環を地方にする地方創生は進んだか。

A 市長 人口減少、東京一極集中は変わらず、地方創生の目的からはこの5年では地方創生は進まなかったが、総合戦略に基づき子育て、教育、産業振興等をめざし取り組み、少しずつ芽が出てきていると思う。

Q 質問 地方創生につながるKPIとその達成状況から事業の見直しを實踐できる行政運営手法PDCAサイクルの再構築が次期総合戦略の最大課題ではないか。

A 市長 KPIは、模索しながら進めてきたが5年

間の成果を踏まえ、より精度を高めていきたい。PDCAサイクルは自己評価、外部評価等総合的な評価で進めているが、更に実効性を高めていく。

Q 質問 若者が求める職業と現状にミスマッチもある。若者が帰って来て住み続けられるために次期計画では新たな雇用創出の戦略を強化すべきではないか。

A 市長 雇用面では、地元企業の理解と共に当然新たな雇用創出も進める。



歩む会
塩谷 寿雄

台風19号の対応は適切だったか

答 反省点もあり、今後につなげたい

Q 質問 姥島橋下流の両岸が一部破損した。幸いにも越水はしなかったが、越水が始まれば命にかかわる問題

だ。交通規制をするべきではなかったか。また、FMなどで市民に知らせるべきではなかったか。

A 市長 通行止めは行わなかった。一部、情報発信の遅れは反省点である、今後は、災害対策本部にFMゆきぐにも入ってもらい、正しい情報を発信していきたい。

Q 質問 FMを聞いていて、避難所がディスプレイと聞き、大丈夫かと思つた。越水すれば、大きい被害が出る場所だ。早い段階で指示を出せばもっと安全な場所に避難できたのではないか。また、避難勧告を26行政区に出したが、障がい者、高齢者の把握はしていたか。また、総合支援学校を避難所として開けるべきではなかったか。そのためには日頃の訓練が大事だと常に言っているが、どうか。

A 市長 時間がないうちで、市長判断で避難所を開設した。たとえ1階が浸水しても、2階に避難できると考えた。避難行動要支援者名簿を各行政区長に配布している。福祉避難所は今後、検討を加

えたい。

える大きな課題だ。訓練についても前向きに考える。

Q 質問 今後、防災ラジオのほしい市民には、市が補助して購入できるようにするべきだ。

A 市長 必要な方のため、補助制度には必ず取り組まなければならない。



未来創政会
中沢 一博

地方創生5年の成果と今後の展望は

答 きちんとやり遂げたい

Q 質問 急速に進む人口減少と高齢化に歯止めをかけるために打ち出した、第一期「地方創生総合戦略」の成果を伺う。

答 ①地方創生事業費の5年間の総予算はいくらであったか。②成果と総括は。③第2期（2020～2024年）の方向性と主な取り組みは。

④若者の移住定住のため、新婚世帯への住居費などの支援拡充を。

A 市長 ①平成27年以降の事業費の総額は5億6300万円で、国からの交付金は4億3100万円である。

②当地が雪国であることが利点であると認識できた。PDCAを行い、民間と一緒に推進していきたい。

③雇用の創出、新しい地方への流れ、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える、時代に合った地域づくりの基本方針に基づき、関係人口の創出拡大を図り、進めたい。

④若者のUターンがポイントである。県外からの移住者に対する家賃補助、市内の方にも住宅改修補助をしている。新婚世帯に関しては引き続き検討していきたい。

障がい者雇用の促進を

答 前向きにやってみようという決意である

Q 質問 雇用移行施設・就労継続施設A型とあわせ、障がい者雇用の促進を家族・企業・支援機関が一体となった取り組みが重要と考えるが、関係機関と協力した中で一人でも多くの方が雇用につながるよう、支援していきたい。どうしてもやっていくという思いである。

A 市長 関係機関と協力した中で一人でも多くの方が雇用につながるよう、支援していきたい。どうしてもやっていくという思いである。



歩む会
勝又 貞夫

小・中学校の学力向上をめざせ

答 今後も努力はしていく

Q 質問 10月の市報（お知らせ版）に明記されている通り、今年の4月に実施された全国学力・学習状況調査において、小学校も中学校も、その学力において、全国や県の平均と比較しても、すべての科目において平均以下という結果であった。これは今年に限った傾向なのか、それとも今までもそうであったのか。

A 教育長 今年に限ったことではなく、数年来続いていることで、全国および県との差については、今年度は特に小学校が大きく下回るという結果になっている。

Q 質問 いろいろな要因があるろうかと思うが、なぜ平均を越えることができなかったのか。

A 教育長 あらゆる手を打ってきたつもりだが、結果はその通りであった。

公共施設の樹木は美観に配慮せよ

答 必要に応じて管理している

Q 質問 公共施設の周辺などの樹木に対する管理は適切か。一貫性がないように思うが。

A 市長 公共施設を管理しているそれぞれの部署において、必要に応じて樹木の剪定や伐採・植栽等を行っている。統一的な基準は設けていない。景観も含め合理的かつ適切に管理していきたい。



未来創政会
永井 拓三

南魚沼市の環境共生は

答 環境に配慮し、行政課題を進める

Q 質問 有害鳥獣対策とその将来展望はいかに。

A 市長 市の方策は、野生動物と人間との間に新たな境界線を作る事。電気柵の設置や里山の再生にも着手している。

Q 質問 環境共生についての初等・中等教育の方針はいかに。

A 教育長 教育現場では理科で、小6・中3の環境教育



本庁舎西側の樹木

の単元、並びに総合的な学習の時間を活用して学んでいる。

Q 質問 行政施設の電力消費量と二酸化炭素排出量の関係はいかに。

A 市長 二酸化炭素の排出量は、発電を行っている電力会社が、どのような組合せで発電を行っているかに委ねられる。今後も省エネルギーの推進、こまめな節電、LED照明の交換を軸に、削減に努めたい。

Q 質問 計画中のゴミ処理場の環境負荷はいかに。

A 市長 環境負荷については、常に留意しながら進めている。一方でゴミ焼却に関する発熱等を利用してエネルギーの再利用を検討する。

Q 質問 新旧ゴミ袋の環境負荷とコストの相関はいかに。

A 市長 新しいゴミ袋はバイオプラスチックを使っていて、環境負荷はこれまでものよりも少ないと見積もっている。一方で価格に関しても一枚当たり約1円

のコスト増ではあるが、多くな負担ではないと考えている。



市民クラブ
梅沢 道男

学校への変形労働時間制導入について

答 すぐに導入する考えはない

Q 質問 国は、学校での変形労働時間制を可能とする法改正を行ったが、現状の長時間労働を追認する結果にもなりかねない、単なる数字いじりではないかとの批判が上がっている。この制度の導入に対する認識と今後の対応方針を伺う。

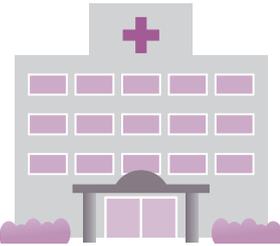
A 市長 この制度は、教師の働き方改革の切り札にはならず、長時間労働を助長するのではないかと等、いくつかの問題もあり、すぐに導入する考えはないが、市の教育振興会、多忙化解消委員会、教職員組合等と十分検討していきたい。

魚沼地域の医療再編計画見直しについて

答 計画は当然立てる

Q 質問 魚沼地域の医療再編計画は計画と実態の乖離が徐々に進んできている。また、この計画は、市長が言うように現在の制度改正前で作られたものであり、再編計画の見直しも必要と思うが、考えを伺う。

A 市長 私は改めるべき点はないと、医療の問題だけではなく、常にそう思っている。計画は当然立てる。しかし、まずは全体の計画もあるが、我々の立ち位置をもつ一度見定め、果たすべき役割について議論しなければならない。



南魚みらいクラブ
吉田 光利

同一労働同一賃金施行による市の影響は

答 施行前により予測はしかなる

Q 質問 同一労働同一賃金の施行による南魚沼市全体への経済及び、雇用形態への影響はどうか。

A 市長 一般的には、非正規を含む全体の賃金が引き上がり、企業側にとっては大きな負担となる。中長期的には雇用形態にも大きな影響が考えられる。

Q 質問 市の非正規雇用者の待遇見直しでの財政面や人員体制への影響を想定した対応策は取られているか。

A 市長 会計年度任用職員制の度により、非常勤職員数の増加により、非常勤職員費の増加により財政への影響はある。超過勤務の削減など、各分野の支出の削減に努めて

いく。人員体制については、職員とのヒヤリング実施により適正配置を行う。財政について国は地方財政措置を検討中であり、市長会・県などを通じて要請していく。

緑化の方針と具体的施策は

答 統一した方針は特に定めていない

Q 質問 公共施設建設時に伴う緑化の方針と具体的な施策はどのようになっているか。

A 市長 学校の敷地内等、記念樹、花壇、プランターなど地元関係者の意向を伺いながら整備の方針を考えていきたい。

Q 質問 市の公共施設にある樹木の維持管理体制は有効に機能しているのか。

A 市長 折々の時期に点検し、樹木の状況を確認して、市民の声をしっかり受けとめて、各施設管理者に伝わるように努める。



日本共産党議員団
岡村 雅夫

国際大学生らの署名 請願にどう対応するか

答 要望は重く受け止める

Q 質問 11月に国際大学用地内の、ごみ焼却場建設

反対の要望が、地域環境を守る会から市長に手渡され、国際大学の学生・卒業生の署名も添えて、ほかに用地の選定を始めるよう強く求めている。今日の事態に至った経過と今後のスケジュールはどうか。

A 市長 建設予定地の周辺集落を対象に、のべ34会場

場で説明会を開催し、大きな成果はあったと考えるが、農業の風評被害の問題と交通量の増加の対策に対しては、なかなか理解が得られていない。ごみ処理施設については、2市1町で検討を重ねてきたが、いまだに結論には至らない。今年度中に結論を出すつもりで明言してきたが、いましばらく猶予をいただきたい。

厚労省の公立・公的病 院の再編統合について

答 議論を促すつもり

Q 質問 厚生労働省が公表した再編・統合の議論が

必要な病院に、ゆきぐに大和病院がある。例えば、基幹病院の地域包括ケア病床は大和病院と競合している。医療の機能分担を前提に医療再編が行なわれたが、実態は、基幹病院からの紹介が難しい状態だ。

医師・看護師・介護職員等のスタッフも不足している。地域完結型の医療構想を検討するべきと思うが。

A 市長 厚生労働省の発表に

は大変驚いているが、魚沼圏域の中で、いろいろ議論を尽くしていかなければならない。地域完結型の医療・介護サービスについては、圏域内での完結率は着実に上がってきている。医療スタッフの不足については、各方面で努力している。6月に政策顧問を置き、様々な問題に対し、最善の計画を立てるよう検討している。



南魚みらいクラブ
清塚 武敏

雪資源活用事業の展 望は

答 雪国に誇らず誇りを訴えていく

Q 質問 環境省の実証事業に、

さいたま市と共同で取り組んだ「東日本連携による雪を活用した熱中症予防対策事業」への期待は。

A 市長 雪を使った熱中症対

策に環境省が着目した点は大きく前に出た。来年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、世界に当市を発信できる機会と捉えている。

Q 質問 来年の八色の森公園

で、聖火ランナーを迎えて行われるセレブレーションに市はどうかかわって行くのか。

A 市長 主会場は組織委員会

等が運営する。詳細は公表できない。当市は周辺会場を担当し、雪の魅力・雪ブ

ランドの情報発信ができるプログラムを考えている。

Q 質問 雪利用の産業化、雪

がどう取り組むのか。

A 市長 雪冷熱源を利用した

建物への冷房を、これからの公共施設に取り入れていきたい。雪室の魅力を市内に浸透させ、地元事業者とともに産業振興に寄与していきたい。

体育祭や運動時の熱 中症対策は

答 対策を整理、各校に周知と徹底をつくす

Q 質問 体育祭の熱中症対策

として、開催時期の検討は。

A 教育長 教育委員会でも検討

を行った。各中学校としては、年間スケジュールの中で一番実施したい時期であり、熱中症対策をとって、実施した。



市民クラブ
田中せつ子

ふるさとを誇りに思 う教育の推進

答 社会全体で子どもたちを守り育てたい

Q 質問 SNSを通じた犯罪

被害やゲーム障がいに対する対応と、家庭への注意喚起は。

A 教育長 低年齢化していて深

刻な状態。講演会を実施し、保護者にも啓発活動を推進している。

Q 質問 食物アレルギー対応

手引きの運用状況と今後の課題は。

A 教育長 増加傾向で小中学校

に121人いる。対応マニュアルに沿って間違いないよう給食を提供している。

Q 質問 南魚沼市子ども若者

育成支援センターが来年度に旧塩沢保育園へ移転するが、メリットと広報は。

Q 質問

個々の学校が行っている体験教育の窓口を教育委員会に一本化し、負担軽減と体験学習増加を。

A 教育長

窓口の一本化は必須と考える、体制を整えるように前向きに検討したい。

Q 質問

給食費の徴収だけでなく督促も市が一括で行う方が効率的では。

A 教育長

その通りと考える。国が自治体にガイドラインを示している。

Q 質問

学習補助をするスクールサポートスタッフを市の予算で増員できないか。

A 教育長

市では限界がある。国・県に強く要望を続ける。

答

教職員の負担軽減に重要な柱として同感

学校の働き方改革と長時間労働是正の推進

A 教育長

電車やバスの利用がしやすい。大和地域は訪問等で今後、丁寧な対応が必要である。移転前からチラシで位置と内容を広報。

市議会で南魚沼市コシヒカリの日に関する市民アンケート調査を行いました。結果をお知らせします！

この調査の目的

この調査は、南魚沼市コシヒカリの普及促進に関する条例（略称：コシヒカリ条例）、そして、10月10日の「南魚沼市コシヒカリの日」が、どのくらい市民の皆さんに知られているか把握するために行いました。

この調査結果を参考に、今後、より多くの方に知っていただけるよう、取り組んでいきます。ご協力いただいたみなさまには、心から御礼申し上げます。

この調査の概要

調査対象	・住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の市民500人 ・市内の小学校5年生（栃窪、後山小学校は全校児童）の保護者504人
調査方法	市民500人には、郵送しました。小学校の保護者には、学校で配布、回収を行いました。
調査期間	令和元年10月1日から10月31日
有効回収数	18歳以上の市民：253人/500人(50.6%)、小学生の保護者：406人/504人(80.6%)、合計：659人/1004人(65.6%)
その他	構成比率（%）の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しています。また、複数回答の設問もあるため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。 図表内の「n＝」は、各設問の回答者数を示し、構成比率（%）を算出する母数となります。

このアンケートでわかったこと

- 85%以上の方がコシヒカリ条例を知りませんでした。
- コシヒカリ条例を知っている94人のうち67%が、議会だよりや市報を見て知ったことがわかりました。
- 約80%の方が南魚沼市コシヒカリの日を知りませんでした。
- 南魚沼市コシヒカリの日を知っている135人のうち、58.5%が10月10日に南魚沼産コシヒカリを食べるようにしていました。
- 約90%の方が、家庭で南魚沼産コシヒカリを食べていました。

回答者について

問 1. 回答者の性別



○男性が約3割、女性が約7割でした。

問 2. 回答者の年齢



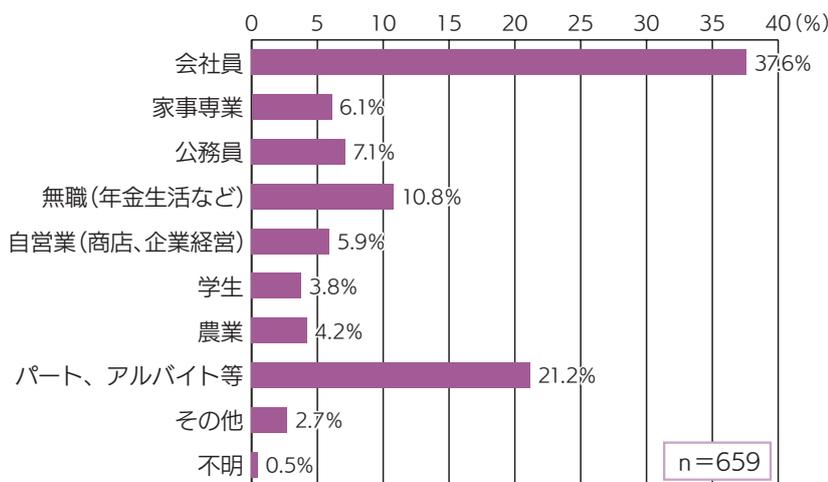
○40代が約4割と最も多く、次いで30代が2割以上でした。今回、対象者の半数が小学5年生の保護者であることから、この結果になりました。一般市民に限定した場合、最も多いのは70歳以上です。

問 3. 回答者の住んでいるところ



○地域別の割合に、特に大きな差はありませんでした。

問 4. 回答者の職業



○会社員が約4割と最も多く、次いでパート、アルバイト等が約2割でした。

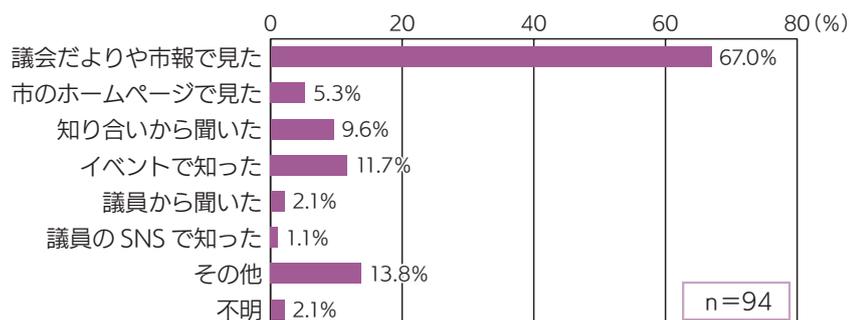
コシヒカリ条例、南魚沼市コシヒカリの日について

問 5. コシヒカリ条例を知っていますか？



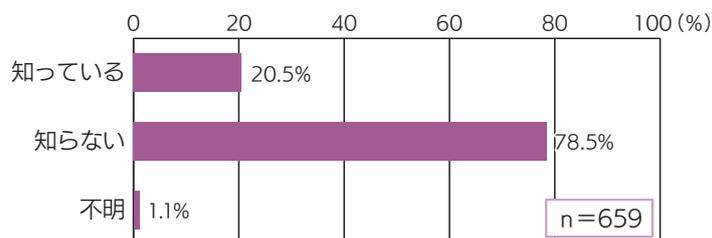
○8割以上の方が、コシヒカリ条例を知りませんでした。

問 6. 知っている人は、どうやってコシヒカリ条例を知りましたか？※複数回答



○「議会だよりや市報で見た」が7割近くで、最も多い理由でした。
○その他の内容は、「仕事関係で知った」、「ニュースで見た」、「子どもから聞いた」などでした。

問 7. 10月10日が南魚沼市コシヒカリの日だと知っていますか？



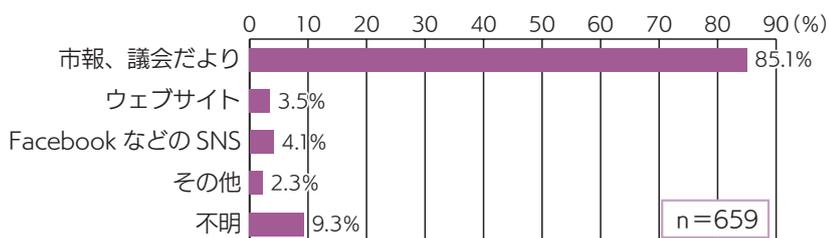
○約8割の方が、南魚沼市コシヒカリの日を知りませんでした。

問 8. 南魚沼市コシヒカリの日を知っている人は、10月10日に南魚沼産コシヒカリを食べるようにしていますか？



○約6割の方が、10月10日に南魚沼産コシヒカリを食べるようにしていました。

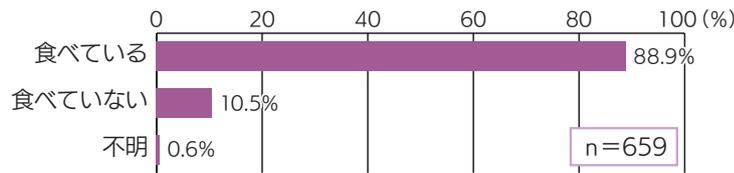
問 9. 南魚沼市議会の情報をどのように得ていますか？※複数回答



○8割以上の方が、市報、議会だよりから情報を得ていました。

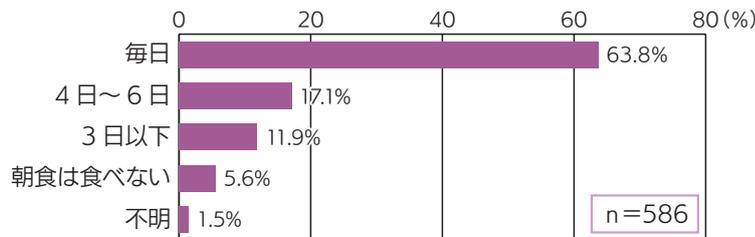
コシヒカリの消費について

問 11. 家庭で南魚沼産コシヒカリを食べていますか？



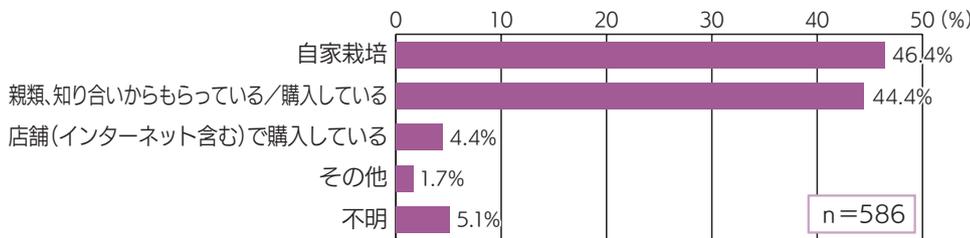
○約9割の人が、家庭で南魚沼産コシヒカリを食べていました。

問 12. 家庭で食べている人は、1週間のうち、何日朝食で南魚沼産コシヒカリを食べていますか？



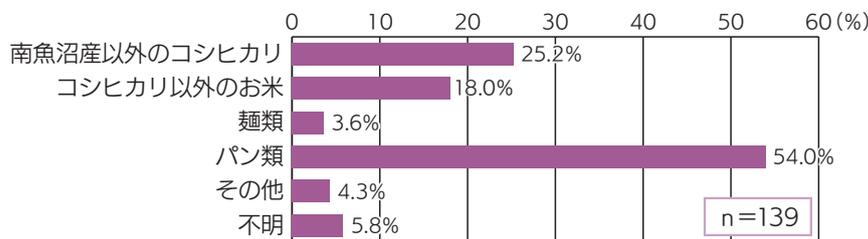
○6割以上の方が、朝食で毎日食べていました。4日以上食べている人を合わせると8割になります。

問 13. 家庭で食べている人は、南魚沼産コシヒカリをどのように入手していますか？※複数回答



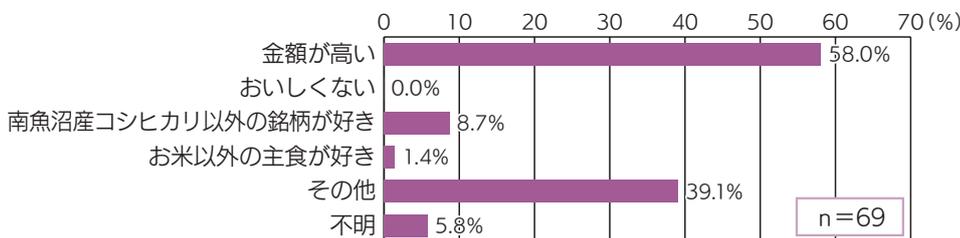
○自家栽培、親類などからもらっている、購入しているがそれぞれ5割近くを占めました。

問 14. 家庭で南魚沼産コシヒカリを食べていない、または朝食で南魚沼産コシヒカリを食べるのは3日以下という人は、朝食では何を食べていますか。※複数回答



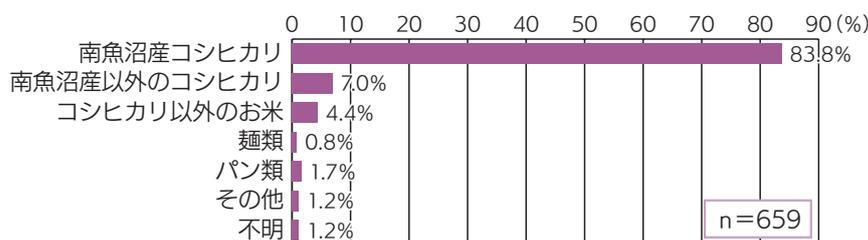
○パン類が最も多く、次いで南魚沼産以外のコシヒカリ、コシヒカリ以外のお米でした。

問 15. 家庭で南魚沼産コシヒカリを食べていない理由は何ですか？※複数回答



○最も多いのは、「金額が高い」でした。
○その他の内容は、市外の親類からお米をもらっているためなどでした。

問 16. 一週間の食事(朝食、昼食、夕食含む)で、一番多く食べている主食は何ですか？



○8割以上の方が、主食として南魚沼産コシヒカリを最も多く食べていました。

いただいたご意見

問 10、問 17は、自由に意見を書きいただきました。いただいたご意見の一部を紹介します。

問 10. コシヒカリ条例をより多くの人に知ってもらうためには、どのような取り組みが必要だと思いますか？

◎特に多かったご意見

- ①イベントでPRする、イベントを開催する。
- ②市報に掲載して、周知する。
- ③SNSを活用して周知する。
- ④TV、CM、新聞などメディアを活用してPRする。
- ⑤スーパーの売り場やレジ等で、ポスターやチラシ、音楽などを使いPRをする。

◎そのほかのご意見

- ・保育園や学校で子どもたちに伝えれば、各家庭、地域に浸透していく。
- ・3食ご飯を食べてもダイエットには影響ないことを、専門家が話してくれるといいのでは。
- ・南魚沼産コシヒカリは高級なので、消費に努めるよう勧められても難しい。消費すること以外に市民としてできることがあるといい。

問 17. 南魚沼市議会や南魚沼市議会議員に対するご意見やご要望

- ・議会の取り組みや活動があまり見えてこない。若い人たちが気軽に相談できる場がもっとあればと思います。
- ・発信力が弱い。市議会だよりだけだと、内容も実感もない感じですぐに忘れてしまう。最近は、議員個人の配布物も少なくなった気がします。
- ・市民の意見を聞きながら、活かしていけるように頑張ってください。
- ・議員活動をもっと活発にしてほしい。

最後に

紙面の関係で全てを掲載することはできませんが、沢山のご意見をいただきました。南魚沼市コシヒカリ条例をさらに知っていただく取り組みや今後の議会活動の参考にさせていただきます。お忙しい中、アンケート調査にご協力いただき、本当にありがとうございました。

有志でボランティアに行きました

令和元年12月20日に南魚沼市議会の有志で、長野県長野市の災害ボランティアに参加しました。



長野市ボランティアセンター



被災地の様子

議会の動き

- 9月2日～20日 令和元年9月南魚沼市議会定例会
- 10日 片貝まつり大花火大会（於：片貝町浅原神社内）
- 16日 第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会 開会式
- 21日 在新潟ロシア連邦総領事館開設25周年記念講演会・レセプション
- 22日 うおぬま・浦佐駅観光案内所オープニングセレモニー
- 24日 会派代表者会議
- 26日 南魚沼職業能力開発運営協会理事会並びに代議員会
- 27日 「木質バイオマス発電への廃菌床の活用について」勉強会
- 国際大学新入生歓迎の日
- 中華人民共和国成立70周年祝賀レセプション
- 30日～10月2日 南魚みらいクラブ政務活動（於：北海道石狩市等）
- 10月1日 南魚沼市表彰式
- 3日 特別養護老人ホーム坂戸楽生園施設見学会・竣工祝賀会
- 6日 南魚美術協会第40回記念事業祝賀会
- 7日 会派代表者会議
- 8日 議会広報編集特別委員会
- 16日 議会広報編集特別委員会
- 16日～18日 歩む会政務活動（於：山口県下関市等）
- 20日 八海山火渡大祭
- 23日 上越魚沼地域振興快速道路「十日町・六日町間」整備促進連絡協議会総会
- 25日 南魚沼市老人クラブ連合会第15回福祉大会
- 28日 令和元年度南魚沼地域合同除雪出動式
- 29日 会派代表者会議
- 31日 魚沼地域特別養護老人ホーム組合議会 オスマン・サンコン氏講演会・懇親会
- 11月6日 令和元年第1回南魚沼市議会臨時会
- 9日 第二上田小学校閉校記念式典・惜別の会
- 魚沼菊花展・浦佐菊まつり特別表彰式
- 14日 福井県あわら市議会視察来訪
- 14日～15日 市民クラブ政務活動（於：富山県滑川市等）
- 16日 第一上田小学校閉校記念式典・惜別の会
- 18日～20日 未来創政会政務活動（於：香川県高松市等）
- 19日 令和元年度中越地区市議会議長会
- 20日～21日 南魚みらいクラブ・歩む会政務活動（於：東京都江戸川区等）
- 22日 議会運営委員会
- 一般国道353号十二峠新トンネル開削要望会
- 25日 十日町市・魚沼市・南魚沼市議会役員合同研修会

3月議会 予告

3月に市議会定例会を開催します。

3月2日～3月19日（予定）

お問合せは
議会事務局（☎773-6650）へ

議会広報編集
特別委員

委員長	大平 剛
副委員長	梅沢 道男
委員	目黒 哲也
〃	吉田 光利
〃	中沢 道夫
〃	勝又 貞夫
〃	阿部 久夫

編集後記

市民の皆様には日頃より議会に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この編集後記を書いている際にはまだ雪が積もっておらず、些か心配しております。雪国である南魚沼において雪は降りすぎて、降らな過ぎても困ります。丁度良い具合に降って貰いたいというのが本心ですが、そう都合良くはいかないのが自然というものでしょう。

さて、令和元年11月臨時会において新しい議会人事が行われ、我々の議会広報編集特別委員会においても委員の交代があり、新しいメンバーを加え、心機一転紙面作りに頑張っております。

今後市民の皆様に分かりやすく、興味を持って頂ける広報誌を目指して、編集委員一同で研究と努力を重ねていきたいと思っております。市民の皆様からも忌憚の無いご意見をよろしくお願い致します。委員長 大平 剛